

指導教員によるコメント

糟谷は、バレエ振付・演出家小牧正英を取り上げ、日本のバレエ界の職能集団の形成において小牧正英が果たした役割に関する研究を進めている。糟谷は、小牧の戦後の活動に焦点をあて、振り付け家・演出家・ダンサーとしての小牧の芸術活動をみることによって、小牧が日本のバレエ界に如何に職能集団を形成しようとしたのか、そしてそのことが現在のバレエ界にどのような影響をもたらしているのかを探ってきた。しかし、そこでは、小牧がバレエを始め、ダンサーとして頭角を現した戦前のハルビン及び上海での活動については小牧に関する文献からの引用に止まっていた。その後、小牧の関係者から貴重な資料の提供を受け、それらの資料につぶさに当たる中で、とりわけ小牧バレエの原点となった戦前のハルビンでの活動を現地調査することが必須の課題として浮かび上がり、今回の学生海外調査研究の助成を得て、ハルビンでの調査を行うこととなった。今回の調査であたることのできた当時の関係者の写真や説明文から日本国内に存在する文献から得た情報への疑問が解かれ、ダンサーであった小牧がダンサーにとどまらず、日本のバレエ界に職能集団の形成をという志を持つにいたる過程への解明に繋がる収穫を得てきたと評価できる。派遣学生は今回の海外調査研究の機会を得て、学位論文に向けての成果をあげたものと認められる。

柴 真理子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）